

『人が主に向くなら』 コリント人への手紙第二章12～18節 2016.3.6(礼拝説教より)

『この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。』 ローマ人への手紙 5:5

◆人を健全に導き、生かすものは何だろう？お金？思想？教育…？ガリレオは言う『神を恐れることなしに人を教育すると、人は賢い悪魔になる』と。◆モーセは、神と接見してシナイ山から降りてきた時、あまりに顔が眩しかったので民は覆いをかけたが、民は、その覆いのために、間もなく消えた輝きが、ずっと続いていると勘違いした。パウロは、私たちの心にも覆いがかかり、創り主である神の本当の御心が分からず、間違った生き方を続けていると言う。それは『律法的に生きてしまう』こと。その特徴は、善悪を自分で決めて、他人を責めたり、恨んだり、あるいは出来ない自分を卑下したりする。なぜ人は、律法に生きてしまうのか？第一に、自己満足が得られるから！誰かと比べて出来ている自分を誇り、プライドを保つ。第二に、律法的な生き方は『わかりやすい』。「御霊によって生きよ」「神に喜ばれる生活を」より、「1日30分祈り、聖書は1日5章、十分の一献金は必ず」…のほうが具体的で明快！…だが、やがて疲れて重荷になり、喜びと命を失う！出来れば慢心し、出来なければ卑下する。「文字は殺し…(3:6)」。

◆その律法の覆いを取り除く唯一の方法は「主を仰ぐこと(3:16)」。太宰治は、聖書を愛読し、キリストの言葉に感動し従おうと必死だったが、キリストの十字架が自分の罪のためだったと、最後まで理解出来ず38歳で愛人と心中…。神の救いと慰めは、「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません(ヨハネ14:6)」と言われた、あのキリストを個人的に心に迎えることによる！自分の罪の身代わりに死なれたお方に心に向ける時、心の覆いは除かれ、健全な生涯へ目覚め、神の用意される永遠の祝福が約束される。

◆世にある多くの宗教の中で、本物はどれなのか？世の鑑定士は、徹底的に「本物」を見てきたので偽物を見分けることができるという。私たちが知るべき「本物の愛」はどこにあるのか？聖書は、天地の創り主だけが、ご自分の創られた世を真実に愛されるという。この方に本物の愛がある！人生の目標を掲げて頑張り、努力することは素晴らしい…だが、神の子の最大の特徴は、「努力・熱心・頑張り」より、創り主の愛と結ばれ、イエス様と共に生きることで、健全で、本来の自分らしい人生の実を結ばせていただける。イエス様の十字架の愛と赦しを仰ぐ時、失っていた「神の似姿」が回復される！★今週、十字架を仰ぎ、悪習慣から自由になり、本物の愛の中に歩もう！